学校だより

NO. 192
平成26年12月25日発行

特集　国際交流プログラム

高専祭前夜祭（男子学生によるミスコン）

高専祭（ミュージックフェスティバル）

高専祭（うちわ抽選）

目　次

総合学生支援センター紹介…… 2
特集　国際交流プログラム …… 4
春潮寮通信 …… 5
学校ニュース
情報マナー講演会…… 6
体育祭…… 6
スポーツ安全講習会…… 7
学校説明会…… 7
性に関する講演会…… 7
北海道地区及び全国高専体育大会…… 8
一日体験学習会…… 9
はこだて国際科学祭……10
学校見学会……10
北海道地区高専体育大会（ラグビー）……10
ロボットコンテスト北海道地区大会……11
高専祭……11
プロジェクトゼロ……11
入学者選抜に関する懇談会……12
安全運転講習会……12
ボランティア活動の函館市表彰……12
防災訓練……13
保護者懇談会・授業参観……13
ＨＡＫＯＤＡＴＥアカデミックリンク2014……13
英語プレゼンテーションコンテスト……14
薬物に関する講演会……14
学生の広場
新幹線ドミノ大会に参加して……14
ニュージーランド語学研修に参加して……15
学外実習を終えて（第４学年）……16
高体連全道ハンドボール大会第３位入賞……17
全国高専体育大会入賞者……18
英語プレゼンテーションコンテストスピーチ部門入賞者…19
ロボットコンテストに出場して……20
高専祭　学科展示の紹介……21
日本ユース陸上競技選手権大会走高跳第３位入賞…22
人　　事
新任事務職員紹介……23
人事異動……24
永年勤続者表彰……25
統　　計 ……25
編集後記 ……28

函館工業高等専門学校

学校だより　2014.12.25　No.192

学生支援の４つの取り組み

総合学生支援センター長　佐々木（ささき）　淳（じゅん）

６月の「学校だより」では、「キャリア教育センター」、「学習支援室」、「学生相談室」の三組織の統合により、新たに「総合学生支援センター」が発足したことをお伝えしました。その後、センターの各セクションでは、大小様々な「学生支援」の取り組みが進められています。以下では、その一部をご紹介します。

○　キャリア教育支援室

先日の保護者懇談会では、何人もの保護者の方々が来室されました。多くの方々の共通の関心は、次のようなものでした。

・希望の就職先が見つかるだろうか。
・就職試験をパスできるだろうか。
・実績のある進学先を知りたい。
・編入学試験をパスできるだろうか。

支援室では、担当教員が「会社情報の調べ方」や「就職試験の実際」、「入試要項や過去問題の入手方法」などを説明するとともに、３月、５月、７月と隔月で開催した「面接ワークショップ」の取り組み等についても紹介させていただきました（右図）。

今年度の就職活動もいよいよ終盤です。次年度の就活、編入に挑戦する学生の皆さんには、支援室から次のアドバイスを送ります。

①　自分の強みと弱点をしっかりと掘り下げよう。
②　「支援室」や支援イベントを早めに利用しよう。
③　「眺める」で終わらせず、紙に書き出し声に出して読もう。

キャリア教育支援室は、自己実現に向けた努力を応援します。

○　学習支援室

先日、校内分掌の配置換えがあり、新室長として一般科目の鳴海准教授から奥平准教授へとバトンが渡されました。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、学習支援室は「スタディサポート」などの基礎学力試験に取り組むとともに、放課後の「一斉学習」により、学習習慣と学習への自信をつける取り組みを進めています。特に、「やる気が起きない」→「ついていけない」→「自信を失う」という「負のスパイラル」の兆しがある場合は、抜け出せなくなり深刻化することも想定されます。こうした状況を独力で跳ね返すのは容易ではありません。しかし、学習支援室の取り組みを学習のペースメーカーとして利用することにより、克服することは十分に可能です。学習支援室は、ひとりひとりの学生の前向きな改善の取り組みを支援します。

○　学生相談室

学生相談室では、個人面談を基本としながら相談者が抱えている悩みの解決に向けたサポートを続けています。悩みの種類によっては短期間で解決するものもありますが、慌てずにしっかり時間をかけた方が良いケースも見受けられ、見極めには慎重を要します。

特に、休みがちになる、成績の悪化、行動・外見の急激な変化が見られる、悲観的な思いにとらわれるなどの場合には、早めにご相談ください。学生相談室では、学生の安全・安心を第一に考え、非常勤カウンセラーなど専門家と連携しながら問題解決に取り組んでいきます。

○　女子学生キャリアサポートチーム

年度当初の組織イメージ図にはありませんでしたが、このたび、本校において男女共同参画推進等に関する業務を遂行するため、センターに「女子学生キャリアサポートチーム」が設置されることになりました。

本校における女子学生の割合は、全校の２割弱にすぎません。多くの先輩女性技術者の経験から、女子学生が社会に出て、結婚や出産などさまざまなライフイベントを経験しながら技術者として成長するためには、ふさわしい知識とスキルが必要とされています。本チームは、女子学生の成長を支援する体制づくりに取り組んでいきます。

現時点では取り組みの数は多くありませんが、今後は数を増やすとともに内容の充実を図りたいと考えています。そのひとつとして、ここでは、「函館高専女子カフェ　お茶べり会」を紹介します。

これは、数が少ない女子学生だからこそできる気軽な交流のイベントのひとつです。このイベントは、お茶やお菓子を持ち寄って交流することをメインに開催しています。中には教職員が先輩として自らの進路選択の経験について語るコーナーなどもあり、学生自身のアイディア次第でまだまだ進化させられる若いイベントです。

本チームでは、まだまだ数の少ない女子学生を、まずは孤立させず、そして自分の強みを発見し、磨きをかけられるようにサポートする取り組みを企画していきたいと考えています。

総合学生支援センターは、このように当初３室でスタートしましたが、「女子学生キャリアサポートチーム」の発足により、「３室＋１チーム」の体制となりました。センターは、複数のセクションからなる組織ですが、「学生支援の充実」を目指すという共通の目標の下でまとまっています。今後も、学生の積極性を励ましながら伴走するスタンスを持って取り組みを進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

学校だより　2014.12.25　No.192

「国際交流プログラム」

国際委員会委員長　河合（かわい）　博之（ひろゆき）

1. シンガポール・リパブリックポリテクニック（Republic Polytechnic）校24名来校

平成26年９月16日から９月21日にかけて、シンガポール・リパブリックポリテクニック（ＲＰ）の学生24名が本校に来校しました。今年度でＲＰから本校への訪問は３度目となりますが、日本に来たい！というＲＰ学生は多く、24人の定員はすぐに決まってしまうようです。また、本校からの交流参加者も年々増加し、今回は本科２年生から専攻科２年生までの17名の学生が参加してくれました。交流は、ＲＰ到着日の開会式から始まり、翌日のワークショップ（実験・発表）、市内観光案内、恵山登山、大沼公園訪問等、内容の濃い交流が行われました。交流目的の一つでもある共同実験では、物質環境工学科・松永智子先生指導の下「食品の抗酸化能力を調べる」というテーマで実施され、身近にあるさまざまな食品を分析しその抗酸化能力を調べました。実験後は、函館学生とＲＰ学生の混合チームでプレゼンテーション準備・発表を行い、無事に全グループ英語によるプレゼンテーションが実施できました。来年度もまたＲＰから本校への訪問が予定されています。今後も多くの参加学生を期待しています。

2. マレーシア・チュンリン高校（Chung Ling High School）９名来校

平成26年９月15日から19日の７日間、マレーシア・チュンリン高校から９名の高校生が本校を訪問しました。昨年度、一昨年度は本校からチュンリン高校への訪問が実施されましたが、チュンリン高校から本校への訪問は今回が初めてとなります。本校からは13名の学生が交流に参加してくれました。チュンリン高校到着の当日は、６名の学生と２名の教職員のご家庭に協力をお願いし、ホームステイを実施しました。１泊２日という短い期間ではありましたがチュンリン高生にとっては忘れられない体験であったと思います。ご協力いただきましたご家庭には感謝申し上げます。その後も市内観光や郊外への遠足、茶道体験等、さまざまな体験を通じて、チュンリン高生と本校学生は交流を深めました。次の本校からチュンリン高校への訪問は平成28年度の予定となっています。

3. シンガポールＲＰ校派遣

９月のＲＰ校の訪問を受け、今年度は３月下旬に１週間のシンガポール訪問を行います。現在２年生８名が参加予定です。本校を訪問したＲＰ学生が歓迎してくれること間違いありません。この研修を通じて英語コミュニケーション能力の向上だけではなく、シンガポールの友達をたくさん作り、国際交流の楽しさを感じてきて欲しいと願っています。

4. フランス技術短期大学（ＩＵＴ）・40日間短期留学

平成27年３月１日から４月10日までの約40日間、本校から初めてフランスのＩＵＴへ短期留学を実施します！専攻科１年生と専攻科進学予定の本科５年生の二人を派遣予定です。40日間異国の地で研究を進めていくことになりますから、困難な場面に出会うことが予想されます。より逞しくなって帰国してくることでしょう。現在、英語科のタケ先生と英語・フランス語の特訓中です。

春潮寮通信

寮務主事　渡辺　力

チェンジ寮食2014

スポーツ大会

薄暮祭

テーブルマナー（4年生）

春潮寮では、昨年度までに施設改修を終え、居住環境や学習環境などを整えました。本年度からは、食環境や規則の改善などにも取り組んでおり、行事とともに春潮寮の様子をお伝えします。

まず、寮の食事については、月に３度「お楽しみメニュー」があり、サンドイッチバイキングが寮生の一番人気となっています。本年度は、給食業者の協力を頂き「チェンジ寮食2014」と銘打って、生ラーメン（西山ラーメン）、七夕での素麺食べ放題、本格カレー、ご当地グルメ（「四日市とんてき」、「根室エスカロップ」…）など、寮生を飽きさせない取り組みを行っています。また、寮生意見箱を活用して寮生の意見や要望にも配慮しており、現在では、朝食にトーストと珈琲など「本当に寮食なの？」と疑うような状況になっています。さらに、寮生全員の喫食状況を調査して喫食指導を行うとともに、食事の重要性の啓蒙や食べ残し指導なども行っており、食環境の改善と食育に努めています。

次に、今年度より低学年のルール改善にも取り組んでいます。集団生活を送る寮では、上級生の目があることから、一年生が御代わりし難い、お風呂では湯船に浸かり難いと言う状況が生まれます。今年度は、「御代わりしていいよ」「湯船に浸かっていいよ」の声掛けを寮生会が中心に行っており、これまで暗黙ルールとしてあった一年生の入浴時間制限は廃止し、全学年統一の入浴時間としています。

また、行事については、10月４日に「スポーツ大会」「薄暮祭」、11月８日には「寮祭」、11月11日には４年生の「テーブルマナー」が行われました。特に、「薄暮祭」は、下級生と上級生の繋がりをもっと密にしたいと寮生会が発案した新しい行事であり、準備を含めて成功裏に終わったことから、毎年の行事の一つに加えることで寮生会と合意しています（行事の詳しい内容は、寮ＨＰをご参照下さい）。

今後も様々な改善に取り組んで参ります。寮生諸君や保護者の皆様は、改善要望がありましたら遠慮なくお寄せ下さい。

学校ニュース

6月10日(火)	情報マナー講演会（1年生）	10月5日(日)	科学の甲子園北海道大会一次予選
6月18日(水)	体育祭	10月11日(土)	全国高専ラグビー大会北海道予選会
6月19日(木)	スポーツ安全講習会	10月12日(日)	ロボットコンテスト（地区大会）
6月29日(日)	北海道地区高専体育大会(7月19日～20日)	10月17日(金)	高専祭（～19日）
7月5日(土)	学校説明会（12日～13日）	10月21日(火)	入学者選抜に関する懇談会
7月15日(火)	性に関する講演会（1年生）	10月30日(木)	防災訓練
8月7日(木)	壮行会	10月31日(金)	安全運転講習会
8月9日(土)	夏季休業（～9月23日）	11月4日(火)	保護者懇談会・授業参観
	一日体験学習会（～10日）	11月8日(土)	HAKODATE アカデミックリンク2014
8月18日(月)	全国高専体育大会（31日）	11月9日(日)	英語プレゼンテーションコンテスト（スピーチ部門北海道地区大会）
8月20日(水)	全国高専将棋大会（～22日）		
9月28日(日)	学校見学会（オープンキャンパス）	11月17日(月)	薬物に関する講演会（3年生）

情報マナー講演会

6月10日(火)7時限目、北海道函館方面本部函館中央警察署生活安全課少年係の渡部晴美氏を講師としてお招きし、「ケータイ・インターネットの危険性」に関する講演会が催されました。携帯電話、スマホ、またＳＮＳなどを利用して個人情報の公開や他人に対する誹謗中傷を行うようなトラブルが本校でも発生しており、携帯電話やネットワークを利用するときの危険性、注意点などを1年生の皆さんに理解してもらいたいと考えてこの講演会を企画しました。渡部氏からは、最近特に増加しているSNSやネット掲示板などを利用した悪質な犯罪やトラブルに対して、事例などを説明していただき危険性や注意点についてわかりやすくお話しいただきました。1年生も自分たちの身の回りに潜む危険性について、真剣な表情で聞いていたと思います。

（学生委員　菊池幸恵：記）

体育祭

6月18日(水)、体育祭が開催されました。朝方から曇りがちでしたが、競技が始まると学生の熱意が雲を吹き飛ばしたのか、昼からは肌を焼くほどの晴天となり、絶好の体育祭日和となりました。

午前は新競技の『徒競走(予選)』、綱引き(前半)、大縄跳び、ムカデリレー、午後は借り人競争、障害物走、新競技の『しっぽ取り』、『徒競走（決勝)』、綱引き（後半)、部活対抗リレー、クラス対抗リレー、学科対抗リレーが行なわれ熱戦が繰り広げられました。(注:『　』書きは今年度からの新競技)

結果は、クラス優勝が3年機械、学科優勝が機械工学科でした。クラス対抗では低学年の躍進も目立ち、来年はさらに白熱した戦いになると感じました。　（学生委員　鈴木　学：記）

スポーツ安全講習会

６月19日（木）の放課後、中講義室において、スポーツ安全講習会が開催されました。今回の講習会には多くの部活・愛好会所属の主に低学年の学生さん達が参加しており、真剣なまなざしで有りながら、どこか楽しげな雰囲気を醸し出していたのが印象的でした。やはりテーピングの実体験が出来る事と、プロ選手も使用しているテープを無料でプレゼントというのが魅力的だと感じました。株式会社ニチバンの担当者の方とも直接お話ができ、競技により使うテーピングや巻き方も異なることなどを知り、非常に勉強になりました。また私自身も、学生さんに足の部分をテーピングして貰い、嬉し恥ずかしながらとても良い思い出になりました。

（学生委員　城谷　大：記）

学校説明会

「高専とはどんな学校？」「函館高専ではどんなことを勉強するの？」「Enjoy ？高専 Life ？（学生の声）」「春潮寮の紹介」など、函館高専に関する様々なことを中学生・保護者・先生を対象に知ってもらう学校説明会が、函館（７／５）、弘前（７／12）、青森（７／13）の各会場で開催されました（三会場合計で383名に参加いただきました、ありがとうございました）。今年も本校学生が学科を選択した理由や頑張っていることなどを話してくれました。将来を考える中で理系と言う選択肢を知ってもらい、その中での高専という制度や函館高専が全国の高専で先駆けて行っている様々な取り組みを理解していただけたのではないでしょうか。

（広報委員長　森谷健二：記）

性に関する講演会

７月15日（火）の７時限目に、１学年を対象に性に関する講習会が開催されました。講師には函館五稜郭病院助産師の葛西かおり氏をお招きし、「性についてたくさん話そう!!」の演題でご講演いただきました。演題の通り、性に関する現状、何が危険なのか、赤ちゃんが生まれるということ、そして、これから性とどう向き合っていけばいいかなどのいろいろなことをお話していただきました。

聴講した学生達がこれから正しく性と向き合い考えてくれることを期待します。

（学生委員　鈴木　学：記）

北海道地区及び全国高専体育大会

第50回　北海道地区国立工業高等専門学校体育大会結果

男子団体戦結果

種目	1位	2位	3位	4位
陸上競技	函館	釧路	旭川	苫小牧
バスケットボール	函館	苫小牧	旭川	釧路
バレーボール	釧路	苫小牧	旭川	函館
ソフトテニス	苫小牧	旭川	釧路	－
卓球	旭川	釧路	苫小牧	函館
柔道	釧路	旭川	函館	苫小牧
剣道	苫小牧	旭川	函館	釧路
バドミントン	釧路	旭川	苫小牧	函館
硬式野球	釧路	函館	苫小牧	旭川
アーチェリー	苫小牧	釧路	旭川	函館
テニス	旭川	函館	苫小牧	釧路
サッカー	苫小牧	旭川	釧路	函館
ハンドボール	函館	苫小牧	釧路	－
ラグビーフットボール	函館	旭川	－	－

女子団体戦結果

種目	1位	2位	3位	4位
バスケットボール	函館	旭川	苫小牧	釧路
バレーボール	函館	旭川	苫小牧	釧路
バドミントン	函館	釧路	苫小牧	－

個人戦優勝者

種目		氏名
陸上競技	男子200m	青木　淳（1年3組）
	男子400m	髙石一平（4年電気電子）
	男子5000m	須藤裕咲（5年物質）
	男子4×100mリレー	松本悠生（1年5組）
		青木　淳（1年3組）
		田村篤志（5年情報）
		髙石一平（4年電気電子）
	男子4×400mリレー	松本悠生（1年5組）
		田村篤志（5年情報）
		横田朝陽（2年生産2組）
		髙石一平（4年電気電子）
	男子走高跳	澤田奨汰（2年生産2組）
	男子走幅跳	澤田奨汰（2年生産2組）
	男子三段跳	田村篤志（5年情報）
	男子やり投げ	田村篤志（5年情報）
	女子800m	及川織絵（1年1組）
卓球	男子個人	吉川　徹（5年物質）
柔道	男子個人73kg級	清野公宏（5年機械）
	男子個人90kg級	二本柳裕仁（2年物質環境）
バドミントン	女子ダブルス	山田春奈（4年環境都市）
		上原悠菜（2年生産3組）
	女子シングルス	上原悠菜（2年生産3組）
テニス	女子ダブルス	多田佳歩（4年情報）
		成田そのみ（4年環境都市）

第49回　全国高等専門学校体育大会入賞者

団体戦入賞チーム

種目	順位
女子バドミントン	3位

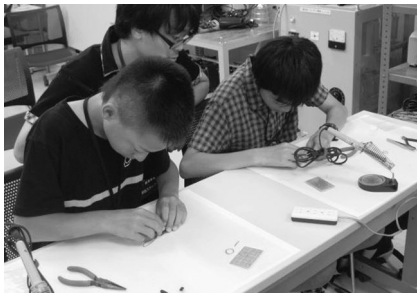
個人戦入賞者

種目		順位	氏名
バドミントン	女子ダブルス	3位	山田春奈（4年環境都市）
			上原悠菜（2年生産3組）
水泳	女子50mバタフライ	1位	上田有梨那（2年物質環境）
	女子50m背泳ぎ	2位	上田有梨那（2年物質環境）

一日体験学習会〈生産システム工学科〉

今年度の生産システム工学科一日体験学習会では、「一日で体験しよう！小さな家電づくり～ケースと動作をデザインするオリジナルＬＥＤライト～」を実施いたしました。ボタン操作でＬＥＤの光るタイミングが変化するＬＥＤライト付マグネットを製作するにあたり、「ケースの設計・加工」を「機械コース」、「電気回路の製作」を「電気電子コース」、「ＬＥＤの光るタイミングを変えるプログラム作成」を「情報コース」がそれぞれ手掛け、３パートを一回りすることによってＬＥＤライトが完成するという流れでした。参加した中学生は、レーザー加工やはんだ付け、プログラミングなどの作業を本校学生に指導されながら、熱心に取り組んでいました。完成品を手にした生徒は非常に満足していました。　（生産システム工学科 湊　賢一：記）

自分でデザインした加工品


真剣に最後の組み立て作業中…

プログラミングでライトの設定を勉強

一日体験学習会〈物質環境工学科〉

「植物を通して化学技術に触れる一日」として２つの実験を体験しました。まずは、例年通りピシッとクリーニングされた白衣に着替えると、照れくさそうな中にも、実験への期待感が増してきます。「植物からの色素の分離」実験は、ニンジン、ホウレンソウ、パプリカなどから色素を分離しました。取出した色素は顕微鏡で観察し、化学的な視点からの考察もしました。もうひとつのテーマの太陽電池の作成では、太陽光を吸収するための色素が重要です。なかなかうまく発電するのが難しい電池なのですが、皆さん電力で風車を回すことができました。この化学への興味・期待感を大切に、一人でも多く理系の進路へ進んでいってほしいものです。（物質環境工学科　小林淳哉：記）

一日体験学習会〈社会基盤工学科〉

今年度の社会基盤工学科における一日体験学習会は、昨年と同じ８月９日（土）、10日（日）の２日間で開催しました。今年度は、社会基盤工学科の重要なテーマである「防災」をテーマとした内容を中学生の皆さんに体験してもらいました。巨大地震の発生から津波や地盤液状化の発生メカニズム、そして巨大地震に耐える構造物に関する迫力満点の実験を通じて実際に手を動かした中学生の皆さんは興味津々の様子でした。

午後からは、函館市の歴史的な町並みを見学し、その後、普段意識していない函館の町並みについてワークショップを開催し、今後の函館の町並みを参加した中学生の皆さんで、楽しく議論することができました。中学生の皆さんにとって、社会基盤工学科がどのような学科なのか、より一層理解が深まった１日になりました。

（社会基盤工学科　宮武　誠：記）

はこだて国際科学祭

８月23日（土）～８月31日（日）に、はこだて国際科学祭2014が開催されました。はこだて国際科学祭とは、科学を楽しむことを切り口に、科学と社会との関係をみんなで考えていくことを目的としたイベントです。６回目となった2014年では「みんなの健康マルシェ　キミからはじまるまちの元気！」をテーマとし、函館市内の各地で展覧会やサイエンスショー、カフェで専門家と語りあう科学夜話など多数のプログラムが開催されました。函館高専は、演劇愛好会の科学演劇「世界のすべてを決めるもの」の上演や函館高専メカニズムフェスティバル、本校図書館でのテーマに合わせて選書した図書の展示などの形で参加いたしました。

（一般科目理数系　下郡啓夫：記）

学校見学会

９月28日（日）に本校のオープンキャンパスが開催され、中学生・保護者の皆様（午前と午後で182名）が来校し、実習工場などの共同施設や各学科のブースの中からそれぞれ興味のあるブースを自由に見学しました。今年度は入学してからどのような授業を受けるのかイメージしてもらうために理科・数学・英語で模擬授業を実施しました。模擬授業も各ブースでの学生の説明も好評の様子で、「夢がたくさんつまったオープンキャンパスでした。とても楽しかったです（中学生）」などの意見もいただき、参加者全員に「今まで以上に函館高専のことがわかった」と感じていただけたようです。

（広報委員長　森谷健二：記）

全国高専ラグビーフットボール大会北海道予選会

第45回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会北海道予選会が10月11日（土）に今年は根崎ラグビー場で開催されました。例年通り旭川高専との代表決定戦となりました。天候にも恵まれ絶好のコンディションの中で試合が行われました。

今年は部員不足でチームとして思うように練習できませんでしたが、ＦＷの健闘で得点を重ね34対12で何とか勝利することができ、今年も神戸で行われる全国大会へ27年連続38回目の出場権を得ることができました。全国大会は１月４日から神戸ユニバーシアード記念陸上競技場で行われます。今年は函館高専ラグビー部の創部50周年の記念の年でもあります。部員一同記念の年に華を添えることができるよう懸命に練習に励んでいます。

（ラグビー部顧問　浦田　清：記）

ロボットコンテスト北海道地区大会

去る10月12日（日）、旭川高専にてロボットコンテスト北海道地区大会が開催されました。今年度はせいろを崩さずに３つの課題をクリアし出前先へ運ぶという競技でした。函館高専は『お盆の水平維持＋横移動機構＋巨大タイヤ』、『ジャンプ』という他の高専にはみられない独自のアイディアを持ったロボットで挑みましたが、残念ながら両チームとも一回戦で敗退しました。参加した学生達が今回の悔しさを忘れず、来年度こそ勝利し両国国技館へ行けることを切に願っております。

最後になりましたがロボット研究会をご支援、そして当日会場で応援してくださった皆様、心より御礼申し上げます。

（ロボコン指導教員　鈴木　学：記）

高専祭

10月18日（土）、19日（日）に平成26年度高専祭が開催されました。また17日（金）は高専祭準備の後、前夜祭が実施されました。前夜祭では、１年生による合唱の披露の後、お笑い芸人「ゴー☆ジャス」さんによるライブ、ミスコンが行われました。前夜祭でのお笑いライブ、ミスコンは昨年にはない企画でしたが、「ゴー☆ジャス」さんの気の利いたアドリブなどにより、かなりの盛り上がりをみせました。本祭では、各部活や愛好会による模擬店の他、各学科による展示やご当地アイドルによるミニライブなどが催されました。学生会長をはじめとした学生会の綿密な準備のおかげで、大きなトラブルもなく無事、高専祭を終了することができました。（学生委員　三栗祐己：記）

プロジェクトゼロ

「プロジェクトゼロ」とは高専祭で行われる「学習成果発表コンペティション」のことで、学生個人や団体が学内外で行ったユニークな活動や研究を発表し、その成果を競い合うものです。今年は新聞局が主催し、高専祭２日目の10月19日（日）に大講義室で行われました。今年の参加団体とテーマは、軽音楽部「騒音問題を解決するために」・埋蔵文化財研究会「埋蔵文化財研究会について」・５Ｊ山口俊太郎君「最長片道切符の旅」・演劇愛好会「科学演劇のこれまでとこれから」・新聞局「これからの新聞局を考える」・英語プレゼンテーションチーム「Smart Game　～賢いゲーマーになるためには」の５団体・１個人でした。各チームの「プレゼン」の後、活発な質疑応答と投票の結果、演劇研究会が最優秀賞を獲得しました。

（学生主事補　泊　功：記）

入学者選抜に関する懇談会

平成26年度の入学者募集に関する説明・懇談する会が、10月21日（火）に本校で開催されました。当日は、函館市内、渡島・檜山管内中学校の進路指導の先生方40名に参加いただきました。校長代理の挨拶に続き、教務主事、学生主事、寮務主事から、教育や学校及び寮の生活における特色について説明がありました。その後、教務係長より、「平成27年度入学者募集要項」をもとに入学者の選抜方法、応募方法等について説明が行われました。新学科も３年目を迎えるため、内容に関する質問等はほとんどありませんでしたが、天候不良等により検査日程が変更になった場合の私立高校受験との日程調整や、入学後の転科等についての質問がありました。前者については、受検者の不利益にならないような対応をする旨を説明して、ご理解をいただきました。今後も、多くの中学生に応募していただくためのご指導をお願いして、懇談会を終了しました。

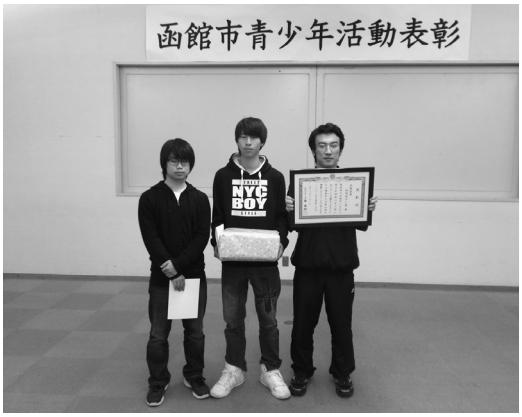
（教務主事　浜　克己：記）

安全運転講習会

平年より早い初雪が降った直後の10月31日（金）、「秋季安全運転講習会」が大講義室で実施されました。この講習会には、車両乗り入れ許可を受けている学生のほか、次年度に乗り入れ許可申請を行う予定の学生など136名が参加しました。本年度は、函館自動車学校学務課長の菊地信也氏に講師をお願いし、「安全運転の知識」という題目で講演していただきました。秋季から冬季の交通事故発生が、早い日没時間に関係することや、薄暮・夜間走行では、ヘッドライトの特性を熟知して如何に早く横断者を見つけるかなどについて、ドライブレコーダの実例を挙げて説明がなされました。この季節、学生諸君が下校する時間帯が、最も高い事故発生率であることから、安全運転に対する心構えを再確認してほしいと思います。

（学生主事補　佐藤博保：記）

ボランティア活動の函館市表彰



（写真左から、藤井君、佐藤君、太田君）

学生委員会では、ここ数年学生の地域貢献を推進し、ボランティア精神を涵養するために近隣の高丘町会と連携した社会活動を行ってきました。具体的な活動内容は、夏は町内高齢者家庭の草刈り、冬は町内の小路の雪かきです。その３年目に当たる今年、高丘町会会長の武下秀雄氏のご推薦により、函館高専ボランティアグループ（学生委員会の公募に集まった各回10名～20名の学生たち）、名付けて「函館高専地域協力し隊」が函館市の「青少年ジュニア活動賞」を受賞しました。11月12日（水）に函館市役所本庁舎８階で賞の授与式が行われ、代表として４Ｚ太田元斗君、１-１佐藤大輝君、１-３藤井一彌君が出席し、賞状と副賞を受け取りました。

（学生主事補　泊　功：記）

防災訓練

10月30日（木）に全学生及び教職員の参加のもと、防災訓練が行なわれました。

訓練は緊急地震速報を受信した後、地震が発生、その後地震に伴い火災が発生するという想定で防災訓練を実施しました。

緊急地震速報を受信してから机の下等に身を隠して地震に備え、その後火災発生による非常放送、消防署への通報、消火栓による初期消火活動、教職員による学生の避難誘導、負傷者の救護等を行ないグラウンドに避難しました。

避難完了後、職員による放水訓練が実施され、防災設備の操作方法を確認しました。訓練終了後は校長の訓示を受け、学生たちは危機意識を新たにしていました。（総務課：記）

保護者懇談会・授業参観

今年度の保護者懇談会は、11月４日（火）に開催されました。クラス担任との個人懇談は終日に渡って行われ、進路選択を控えた４年生の保護者が87名と最も多く、総勢で356名の方に出席をいただきました。

並行して、１・２時限目には各クラスで授業参観が行われ、60名からアンケートを提出いただきました。また、３・４時限目に大講義室で行われた全体懇談会には、125名と多くの方が参加されました。校長代理の挨拶に続き、教務主事からは高専機構が定める高度化へのビジョンに対する本校の具体的な取り組みとして，教育改革を中心とした学習活動全般についての説明が行われました。また、学生主事からは身だしなみや携帯端末の利用マナーを中心とした学生生活全般の状況、総合学生支援センター長からは、今年度新設された総合学生支援センターと具体的な支援内容について説明がありました。質疑応答では、学校のさまざまな情報の提供方法についての質問が寄せられました。

全体懇談会終了後には、春潮寮で寮生保護者懇談会も開催され，寮務主事から施設改修後の状況や本年度からの取り組みについて説明が行われました。

アンケートや個人および全体懇談会で頂戴した保護者の皆さまからの貴重なご意見は、今後の学校運営に役立たせていただきます。（教務主事　浜　克己：記）

HAKODATEアカデミックリンク2014

11月８日（土）、函館市青年センターにて、「HAKODATE アカデミックリンク2014」が開催されました。49の展示ブースと９つのステージが一堂に会し、函館で学ぶ学生の多彩な研究発表がなされました。その中で、函館高専は、展示ブースで『菜の花酵母でパン作り』と題した、チーム地酒だけじゃない菜の花（２年物質環境工学科藤山聖梨・堀川智帆・松田直貴）の発表が優秀賞を受賞いたしました。またステージ発表で、『科学演劇のこれまでとこれから』と題した、チームActor ＠函館高専（１年３組　田中優海・檜山凜子　１年１組　井上海斗）のプレゼンが大賞を受賞いたしました。（一般科目理数系　下郡啓夫：記）

英語プレゼンテーションコンテスト

平成26年度第５回全国高専英語プレゼンテーションコンテスト・スピーチ部門北海道地区大会が、11月９日(日)苫小牧高専を会場に行われ、本校から３Ｅ中島直道君と３Ｃ佐々木汐音さんが出場しました。

中島君は“Missing Pieces for the Student Council”という演題で、学生会役員として、学生全てのための学生会になるには自分は今何をすべきかを英語で発表し、佐々木さんは“Theater Leading Me To a New Stage”という演題で、自分自身の成長の過程で演劇がどのような役割を果たしてきたかを英語で発表しました。

審査の結果、僅差で中島君が優勝、佐々木さんが準優勝し、２人とも北海道代表として、来年１月24日～25日に東京代々木・国立オリンピック記念青少年総合センター国際会議場で行われる全国大会に出場することになりました。　（英語プレコン指導教員　奥崎真理子：記）

絶対ダメ！　薬物乱用防止教室開催される

11月17日(月)第３学年を対象とした「麻薬･薬物に関する講演会」が、函館中央署の生活安全課少年係の金子芳生氏を講師に開催されました。

麻薬や薬物にはどのような物があるのか、使うとどのような影響が身体にあるのか等、その恐ろしさが実感できるような内容でした。また、薬物等を手に入れるために犯罪を犯したり、犯罪に巻き込まれる事例などが紹介されていました。

北海道は、特に野生の大麻が自生している関係からか、高校生が簡単に手を出してしまい検挙された例も紹介されていました。

講演の中で講師の金子氏が実際に体験した少年犯罪の現場での出来事や家族の悲哀についても、テレビなどからは感じられない“生の話”は、聞く者の心を動かす内容でした。

（学生委員　國分　進：記）

新幹線ドミノ大会に参加して

第５学年機械工学科　福士（ふくし）　優介（ゆうすけ）

今年９月、北海道新幹線ドミノ大会という大きなイベントが行われました。このドミノ大会は、函館と青森の七つの大学から33人の学生が参加し、７月から準備にとりかかり、何度も失敗を重ねて試行を繰り返し、参加した仲間と一緒にかけがえのない経験をすることができました。またこうした私たちの姿が動画になって、北海道新幹線の開業ＰＲのために役立たせてもらっています。北海道のホームページで公開されている動画を見た友人からも、感動した、良かったといった反響があり、本当にやって良かったと実感しています。北海道に住む私にとって新幹線はあまり馴染みが無いもので、新幹線開業も漠然と考えていましたが、今回の大会参加によって非常に身近なものとなり、益々楽しみになりました。

ニュージーランド語学研修に参加して

第３学年電気電子工学科　坂野（さかの）　遼生（りょう）

私がこの研修に参加したのは語学力の向上はもちろん、ホームステイという貴重な体験が出来ると思ったのが理由です。高専に入学するまでは英語を習っていて英語は得意教科でした。しかし、それを活かす機会がなかったため、今回の研修で実践的に英会話をしてみたいと思っていました。また、マレーシアの研修では、現地の英語は訛りが強いため知っている単語も聞き取るのが難しく、その時は英語力が未熟であまり話すこともできなかったこともあり、英語圏の英会話に触れてみたいと思ったのと、自分の成長を確かめたかったからです。

私たちはイースタン工科大学（EIT）で語学研修を行いました。EIT での授業は内容としては中学校レベルですが、授業はすべて英語で進んでいくので最初はついていくのが難しく、戸惑いました。ですが、授業の中で英会話をする機会が非常に多く、リスニング力とスピーキング力が気付かない間に着実に身について授業にもついていけるようになっていました。その中で、英会話について大切なことに気が付くことが出来ました。今までは、英語を話す時や聞き取る時にいつも英語と日本語を訳すというワンクッションがあったのですが、それでは英会話は出来ないということ。単語一つ一つを訳すことに気をとられていては、理解できるはずの文章のニュアンスも理解出来なくなってしまいます。大事なのは英語を理解するということでした。このことに気付くことが出来ただけでもこの研修に参加した意味があったと思います。また、クラスメートにはアジアの様々な国からの留学生がいたので、ニュージーランドの文化だけではなく、色んな国の文化についても知ることが出来ました。そして、改めて世界の広さを実感することが出来ました。

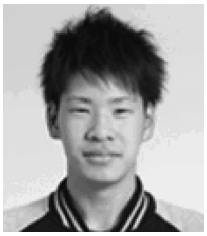
ホームステイについてです。ホームステイ先に着いてからは不安でした。しかし、ホストファミリーは何度も受け入れをしている家庭で、東京からの日本人留学生がいたおかげで不安はすぐに消えました。ホストファミリーはとても優しく、家族間で話すのと違い、ゆっくりと話してくれました。ゆっくりと話してくれたものの、最初は何を言っているか分からない時も多かったです。ですが、聞き直したら何度も言ってくれたし、ニュアンスはなんとなく伝わるので大丈夫でした。夕食などは量が多く食べ切るのがきついと聞いていたのですが、そんなこともなく丁度良いくらいでした。ですが、一度夕食に羊の脚のローストが出てきた時には驚きました。見た目もそのままに近い状態で、味も生臭さが残っており、日本ではそういった料理はないのでギャップが大きかったです。でもこれもまた良い経験が出来たと思います。

今回の研修で得たものは大変多く、とても貴重で、今ではかけがえのないものになっていることがたくさんあります。語学研修ということでしたが、語学力の発達だけでなく、これからの人生や今までの考え方に大きく影響することであろう大切なものをニュージーランドで出会った人達から、感じ、学ぶことが出来ました。この研修には、これからも多くの人が参加してほしいと思います。この研修に参加し、日本に帰ってきてから思い悩むこともありましたが、私はこの研修に参加することが出来て本当に良かったです。この研修に参加する機会を与えていただいた多くの方々に感謝しています。

第４学年学外実習　～学外実習を終えて～

三菱日立パワーシステムズ株式会社での実習

第４学年機械工学科　東出泰治（ひがしで たいち）



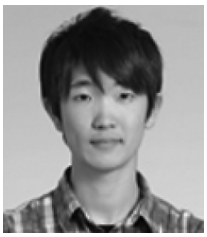
私は三菱日立パワーシステムズ株式会社（MHPS）で10日間の学外実習を行いました。三菱日立パワーシステムズは今年、三菱重工業と日立製作所の火力発電事業が独立してできた会社で、火力発電事業では日本ナンバーワンです。私が行ったのは九州の長崎工場（長崎造船所）で、生産システムに関する実習を行ってきました。

実習をしていて一番感じたのは、学校を卒業して就職してからの方が勉強することはたくさんあるということ、自分が犯してしまったミスはその場、その部署だけでなく、全体に響くことです。実習では初日に工場見学などを行い、あとは課に配属され、そこで働く（実習する）というもので、課の人はフレンドリーな方ばかりなので、あまり固くなることなく実習を終えることができました。

インターンシップは非常に為になります、またその経験は５年生の進路選択の時に重要となるものなので、次の４年生になる３年生には是非、行ってほしいと思います。

サントリーホールディングス株式会社での実習

第４学年電気電子工学科　古田健太（ふるた けんた）



私はサントリーホールディングス株式会社で５日間実習をさせていただきました。

サントリーでは「やってみなはれ」を企業理念としており社員一人一人が自身の目標を明確としており、柔軟な発想と豊富な経験、確かな技術からそれらを実現させようとしている姿勢を目の当たりにするなど、会社全体から活気が溢れているのが強く印象に残っています。

実習では普段何気なく目にしている製品の構成、製作現場での作業風景、様々な安全対策、ものづくりへの思いを知ることが出来とても充実したものでした。

今回の体験を通していまの私に大切なことは、基礎知識を蓄えると共に自分の進路を明確にすることだと感じました。短い間で得たものはとても多く、それらを十分に活かし今後の 学生生活を送っていきたいです。

テコム株式会社での実習

第４学年情報工学科　多田佳歩（ただ かほ）

私は、神奈川県にあるテコム株式会社で実習をさせていただきました。

テコム株式会社は、ネットワークやシステムの設計から保守までを行っている会社です。私が学外実習に行った大きな目的は、会社では、どのような雰囲気の中で仕事をするのか、今学んでいることをどう活かしていけるのか、ということを少しでも知りたいと思ったからです。

一番印象に残っているのは、実際にテコム株式会社のシステムが導入されている施設の見学をしたことです。そこでもしシステムがダウンしてしまった時の責任の重大さ、損失などについてや、どのようにしてそれを防いでいるかなどを教えて頂き、働くことの責任の重大さを感じました。

学外実習を終えて、自分の技術、知識両方の不足を感じ、また、自分が社会にでて働いて行けるか不安になったというのが正直な感想です。自分が社会に出て、責任ある立場になるのもそう遠くない未来なので、もっと勉強をして自信をつけたいと思いました。

北海道大学水産学部での実習

第４学年物質工学科　市川正人（いちかわまさと）

私は本年８月11日から５日間、北海道大学水産学部で学外実習を行ってきました。実習先の高橋是太郎教授は世界的にも有名な大先生と伺っておりました。実習テーマは、「シーベリー油のケン化」と「イカの皮の脂質分析」です。今回の実習を通して学んだことは、実験の難しさです。今回の実験は自分の思うようになかなか進まず、疲れもたまるものでした。とても根気のいる作業だと痛感しました。

また、基礎知識に加え専門知識も不足していると感じました。知識が不足しているがために実験をスムーズに進められませんでした。以上のことを踏まえて、今後の学校生活では、基礎知識と専門知識の習得に精を出し、今回の実習を通して学んだことを活かしたいと思っています。今後もアカデミックな研究の分野に進みたいと思っています。ご指導いただいた高橋先生、有難うございました。

北海道開発局函館開発建設部での実習

第４学年環境都市工学科　山田春奈（やまだはるな）

私は９月の初めに北海道開発局函館開発建設部函館農業事務所で５日間の学外実習をさせていただきました。実習では測量業務や用水路補修工事の調査、国営事業に関する農業施設の見学に行きました。実習を通し、１つ１つの農業施設が重要な役割を果たし、地域農業の生産性の向上と経営の安定に貢献していることを知りました。それに加え安全性や景観にも配慮し地域の方々が安心して利用できる地域用水機能の増進も図っていることを知り、技術者とは１つのことだけではなく様々なことに視野を広げなければならないと実感しました。開発局の説明や仕事の話を聞きやりがいのある仕事だと感じた反面、少しのミスも許されないという責任を感じました。

また、職場の方々に就職のことや公務員試験に対するアドバイスも沢山いただき、これから進路を決めていくに当たり、自分は将来何がしたいのか改めて考えさせられました。今後は社会に出るという自覚を持ちこの学外実習で学んだことを忘れず学生生活を送りたいと思います。

高体連全道ハンドボール大会第３位入賞

第３学年電気電子工学科　宮下賀衣（みやしたかい）

今回、高体連全道大会（インターハイ道予選）で第３位となりました。これは、10年近い函館高専ハンドボール部の歴史の中で、平成20年度の全国高専大会優勝と並ぶくらいの快挙だと思っています。これもひとえに長谷川軍司監督を初め、選手のみんな、後輩たち、家族、体育館の割り当てに協力してくれた他の部活のみんな、顧問の先生方など、関わるすべてのみなさんのおかげだと思っています。ありがとうございました。

僕はこれで高校の部の引退となりますが、後輩たちのチームはもっと良い成績を残せると信じていますので、最も近い全道大会（新人戦）や来年の高体連大会に向かって頑張ってください。みなさん、これからも応援よろしくお願いします。

全国高等専門学校体育大会入賞者

水泳競技女子50mバタフライ優勝・50m背泳ぎ準優勝

第２学年物質環境工学科　上田（うえだ）　有梨那（ゆりな）

（写真左端　上田さん）

今年度の全国高専水泳大会は、香川県高松市にある香川県立総合水泳プールで行われ、私自身初めての屋外プールでの競技となりました。

今回の大会では、北海道の高専で初めて女子のリレーの出場を果たしました。決勝に出場できる８位以内を目標にしましたが、結果は惜しくも10位で悔しい思いをしました。でも、チームを組むことができたこと自体、これからにつながる意義のあるチャレンジだったと思っています。

個人種目では、去年と同様、50m バタフライと50m 背泳ぎに出場しました。去年はどちらも２位で、今年は特にバタフライでリベンジしようと思い、一ヵ月間、バタフライ中心の練習をしてきました。決勝は雷雨の中行われましたが、仲間の声援もあり、バタフライでは大会新記録で優勝することができました。また、背泳ぎの方も去年同様２位という結果でした。一応、目標としていたバタフライの優勝は果たせましたが、まだまだ納得のいくレースではないので、来年はさらにアップを目指して努力したいと思っています。

最後に、応援してくださった皆さん、顧問の先生方、水泳部の仲間たちには、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

バドミントン女子団体競技 ３位

第４学年環境都市工学科　山田（やまだ）　春奈（はるな）

私たち女子バドミントン部は苫小牧で行われました地区大会において団体初優勝をとることができ、愛媛県松山市で開催された全国大会へ出場しました。団体として全国大会へ出場するのは初めてということでメンバーの意識もたかまり、日々の練習にもより一層力を入れて頑張ってきました。大会当日は緊張の色も見られましたが、メンバー１人１人がしっかりといいプレーを見せてくれて３位という結果を残すことができ本当に嬉しく思います。決勝戦までは、あと一歩というところでしたが惜しくも負けてしまい悔しい思いをしたので、来年の専体協では全国優勝を目標にメンバー全員で努力していきたいと思います。

最後に、引率していただいた顧問の先生、応援してくれた仲間や保護者の皆様に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

バドミントン女子ダブルス競技 ３位

第４学年環境都市工学科 山田（やまだ） 春奈（はるな）　　第２学年生産システム工学科３組 上原（うえはら） 悠菜（ゆうな）

（写真左から、山田さん、上原さん）

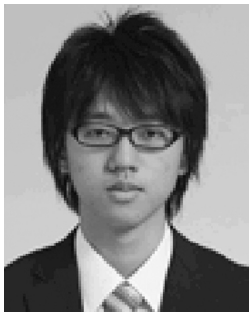
私たちは苫小牧で開催された北海道地区大会において女子ダブルスで優勝したため、全国大会へ出場することが出来ました。去年の全国大会ではあと一歩及ばず負けてしまい結果を出せず悔しい思いをしました。２人で「今年こそは」と気合を入れて毎日のように戦術を考え技術面も鍛えてきました。 大会では慣れない空調や暑さに厳しさを感じましたが、後輩たちがしっかりサポートしてくれて３位入賞という結果を残すことができとても嬉しい気持ちです。来年は全国優勝を目指しているので日々の練習を精一杯頑張りたいと思います。

最後になりましたが応援してくれた顧問の先生、部活の仲間、 両親にとても感謝しています。ありがとうございました。

英語プレゼンテーションコンテスト スピーチ部門全国大会出場者

北海道予選１位

第３学年電気電子工学科 中島（なかじま） 直道（なおみち）



このコンテストでは、これからの学生会の在り方について私自身が長い間思い続けていたことを述べています。

中学時代熱を注いでいた「弁論」だったのですが、英語での発表になったことで更にやる気を持って挑むことができました。

今回の全道大会では、様々な人の支えにより、力を出すことができました。ありがとうございました。

全国大会でも、今にとどまることなく、全力を尽くしてきます。みなさんの力をお借りできれば幸いです。

北海道予選２位

第３学年物質工学科 佐々木（ささき） 汐音（しおん）

今回のこのスピーチコンテストの全道大会参加は私にとってとてもよい経験になりました。

普段演劇をやっている私にとって、スピーチはあまり馴染みのないものだったからです。

しかも、英語でのスピーチ！ 最初は、どうなることかと心配しましたが、奥崎先生とタケ先生の献身的なご指導のおかげでなんとか形にすることが出来ました。でもこれで終わりではありません。

全国大会では、更によいスピーチを目指していきたいと思います。

学校だより　2014.12.25　No.192

ロボットコンテストに出場して

「EIIL（イカエル）」（Aチーム）

第３学年機械工学科　千葉大雅（ちばたいが）

ロボコンシーズンが始まる前（ルールが発表される前）、函館高専ロボット研究会ではあることが決まりました。それは「チーム分けの方法を目標が同じ人同士でまとめる」というもの。

つまり、優勝を目的としたチーム（Bチーム）、ロボコン大賞を狙うチーム（Aチーム）とに、分けるというもの。ところが・・・

わたしはAチーム（ロボコン大賞を狙うチーム）に入ったのですが、なんとAチームに入った人がロボ研部員30人中３人しかいなかったのです。しかし自分たちで決めた道。３人で頑張ろうと決めました。

今年の競技テーマは「出前迅速」。そばの蒸籠を重ね、障害物を乗り越えて運んでいくという競技です。私たちは、ロボコン大賞を狙うのには観客の皆さんと審査員への“ウケ”を考えて、あえて“ジャンプする”という方向に決まりました。

しかし、ジャンプするということは我々が考えているよりも非常に難しく、結局、本番まで一回も飛ぶことができずに終わってしまいました。そして全国大会へは行けませんでした。

来年は今年の反省を生かし、全国への出場を目指して活動していきたいと思います。

「市電でGO！」（Bチーム）

第３学年電気電子工学科　大澤拓門（おおさわたくと）

今年度のロボコンのテーマは「出前迅速」でした。「出前迅速」というのは、ロボットに取り付けた腕にお盆を起き、その上に蒸籠を載せて障害物を越えながらゴールであるお客さんの所に運ぶ、という競技です。

私達函館高専Bチームは、大きめのタイヤと輪ゴムを用いた腕でロボコンに挑みました。大きめのタイヤで障害物を越えて、輪ゴムの張力を用いて、衝撃を吸収し、優勝を狙いました。

結果は、惜しくも優勝を逃してしまいましたが、特別賞をいただきました。

今年度のロボコンでは、めぼしい結果は出せませんでしたが、来年度こそ、優勝したいと思います。

高専祭　学科展示の紹介

機械工学科

第４学年機械工学科　福士拓弥（ふくし　たくや）

例年、機械工学科の学科展示、特に実習工場では、人手不足と時間不足に、悩まされてきました。

今年はそれを解消しようと夏休み中から、何度も学校に集まり、また人数はいつもより多く配分してもらいましたが、それでも高専祭前は遅くまで残って作業をしました。当日は、「妖怪ウオッチ」の発売日にもかかわらず、たくさんのお客さんが来てくれました。

また、今回の新商品、ステンレス製ドッグタグは大人気で予定していた100個の倍近い数が売れ、努力が報われました。いろいろ失敗もあった学科展示でしたが、結果は大成功だったのでよかったです。

協力してくれた機械工学科の関係学生の皆さん、技術職員の方々そして先生方、本当にありがとうございました。

電気電子工学科

第４学年電気電子工学科　田中麻莉乃（たなか　まりの）

今年の電気電子工学科の学科展示は、多くの班で製作が間に合わず、一般公開開始時で10班中２班のみの出展となりました。

その他の班は製作を続けましたが、初日終了時に完成していた班は３班でした。どうにか高専祭で作品展示しようとクラスの半数以上がその日夜遅くまで学校に残り、２日目には７班が作品を展示することができました。来場者の皆さんにも楽しんで頂けたようで、とても充実した学科展示となりました。

完成、未完成に関わらず全員が頑張って製作に携わっていたことを嬉しく思います。ありがとうございました。

そして最後になりますが、作品の製作にご協力頂いた先生や技術職員の皆さんにお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

情報工学科

第４学年情報工学科　西村颯太（にしむら　そうた）

今年の情報工学科の学科展示は、夏休みが終わるころにゲームを作り始めました。学祭が始まる数日前にゲームが製作し終わり円滑にゲーム製作をすることができました。夏休みにクラスの分担を決めていたのでクラス全員が一つになって学科展示を成功することができたと思います。

今年展示したゲームは３つでＤＤＲのマットを使って障害物を避けるゲーム、android 端末のセンサを使用して球を転がしてゴールに向かうゲーム、バットとスイッチを使用するゲームを製作しました。概算で600人程度の人にゲームを楽しんでいただけました。

最後に、ゲームに使用する道具の作成に協力していただいた先生や学生のみなさん、最後まで協力してくれた 4J のクラスの皆さん有難うございました。

物質工学科

第４学年物質工学科　黒川佳奈（くろかわかな）

例年大盛況の物質工学科学科展示、今回は人気の人工いくら、液体窒素、トンボ玉などの実験に加え、顕微鏡やDNA抽出などの展示のブースも設置しました。当初４年生の集まりが実験の数に比べ少なかったので不安なスタートでしたが、低学年の参加が例年の倍ほどだったので、無事に円滑に行うことができました。打合せや予備実験も綿密に行い、今までで一番一致団結した期間だったのではないかなと思うほどでした。

当日は来る人来る人が興味津々に実験を見て、感動してくださる方が多く、とてもうれしかったです。また、目の前のことで精一杯になるほど忙しかったので、大盛況に終わることができたと思います。

最後に、協力してくださった先生方、一緒に頑張ってくれたクラスのみんな、２・３年生ありがとうございました。

社会基盤工学科（環境都市工学科）

第４学年環境都市工学科　村田匠（むらたたくみ）

今年の社会基盤工学科の学科展示は去年と同様たくさんの方が来てくれました。今年は昨年と使える教室などが違い、一から考えなくてはいけない状況で、学科展示のゲートなども最初から作らなくてはいけませんでした。でも、クラスの人が手伝ってくれたおかげでなんとか終わることができました。今年からは津波体験など新しいことにも取り組み、人手が足りなくなるくらい大人気でした。

また、毎年行っているスタンプラリーではたくさんの人が参加してくれて「ＣＩＶＩＬ♪」の文字を完成させることができました。このようにクラス全体で行う行事があまりなかった４Ｚにとってはとても意味のある行事になったと思います。いろいろ不安があった高専祭でしたが無事成功することができてよかったです。最後になりますが、ご協力して下さった先生方、クラスのみんな、本当にありがとうございました。

日本ユース陸上競技選手権大会走高跳で第３位入賞

第２学年生産システム工学科２組　澤田奨汰（さわだしょうた）

（写真左　澤田君）

私は10月５日に愛知県名古屋市で行われた日本ユース陸上競技選手権大会に参加し、走高跳で２ｍ00cmをクリアして３位入賞を果たしました。この大会には、８月に行われたインターハイで日本ユース出場の標準記録を超える２ｍ03cmをクリアしたので出場することができました。

大会当日は雨の中の悪いコンディションでしたが、悪天候にもかかわらずとても良い跳躍で自己ベスト近くまで跳べることができました。３位という結果にはとても満足しています。けれども、来年は絶対に２ｍ10cm以上をクリアして、インターハイなどの大会でより上位を目指していきたいです！

最後に、このような結果を残せたのは先生や部活の人たちなどのおかげです。ありがとうございました!!

新任事務職員紹介

氏名：**佐々木　信尚**（ささき　のぶたか）
①転入年月日：平成26年７月１日
②職名（所属）：学生課学務事務グループ主任
③前　職　等：機構本部事務局企画課主任
④趣　　味：スポーツ観戦、旅行
⑤一言（抱負）：７月１日より学生寮事務室にて勤務しております佐々木です。平成18年１月に函館高専に採用となり、この度４年３か月ぶりに本校に戻って参りました。学生寮での仕事は初めてですが、学生との距離が近くとても新鮮な気持ちです。至らない点ばかりですが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。

氏名：**荒井　弓子**（あらい　ゆみこ）
①採用年月日：平成26年６月１日
②職名（所属）：総務課事務補佐員
③趣　　味：美味しいものの食べ歩き、ドライブ、献血
④一言（抱負）：今年の４月、函館に越して来て、６月より総務事務グループにて事務補佐員としてお仕事させていただいております。半年経ちますが、今回初めての学校での勤務という事で、これから社会を担う学生の皆さん、その学生の方々を育てられる教職員の皆様のお役に立てるよう頑張ります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

氏名：**石田　彩香**（いしだ　あやか）
①採用年月日：平成26年８月１日
②職名（所属）：総務課事務補佐員
③趣　　味：３Ｄモデリング
④一言（抱負）：このたび総務課事務補佐員として働かせていただくことになりました石田と申します。動画の撮影・編集担当ということで、至らぬ点もあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

氏名：**佐藤　仁子**（さとう　さとこ）
①採用年月日：平成26年８月１日
②職名（所属）：総務課事務補佐員
③趣　　味：焼き菓子作り、旅行
④一言（抱負）：８月から企業技術者等活用プログラムの、英語翻訳担当として勤務しております。今までに経験がない仕事に悪戦苦闘しておりますが、自分の能力を生かせることに感謝しており興味深い毎日です。学生の皆様のお役に立てるよう、教職員の方々にご指導いただきながら一生懸命やっていきたいと思いますので、宜しくお願いいたします。

氏名：**嶋田　真一**（しまだ　しんいち）
①採用年月日：平成26年11月17日
②職名（所属）：学生課事務補佐員（有期雇用）
③趣　　味：ダーツ、運動全般（冬はスキー）
④一言（抱負）：11月17日より学生課事務補佐員として働かせて頂くことになりました嶋田と申します。全力でサポートしていけるよう、頑張ります。まだまだ不慣れですが、皆様のご指導よろしくお願い申し上げます。

人　事　異　動

●採　用　平成26年６月１日

職　　名	氏　　名
総務課事務補佐員	荒　井　弓　子

●配置換　平成26年６月１日

職　　名	氏　　名	前　　職
研究支援員	畠　山　裕　美	総務課事務補佐員

●辞　職　平成26年６月29日

職　　名	氏　　名
学生課寮務係長	福　田　仁　士

●配置換　平成26年７月１日

職　　名	氏　　名	前　　職
学生課学務事務グループ主任	佐々木　信　尚	機構本部事務局企画課主任
総務課総務事務グループ	五十嵐　麻里子	総務課財務事務グループ
総務課財務事務グループ	金　子　亜　純	総務課総務事務グループ

●採　用　平成26年８月１日

職　　名	氏　　名
総務課事務補佐員	石　田　彩　香
総務課事務補佐員	佐　藤　仁　子

●昇　任　平成26年10月１日

職　　名	氏　　名	前　　職
総務課財務事務グループ主任	畑　中　寿　郎	総務課財務事務グループ

●辞　職　平成26年10月９日

職　　名	氏　　名
准教授物質環境工学科	寿　　雅　史

●採　用　平成26年11月１日

職　　名	氏　　名
特任教員	瀬　戸　伸　晴

●採　用　平成26年11月17日

職　　名	氏　　名
学生課事務補佐員（有期雇用）	嶋　田　真　一

永年勤続者表彰

11月26日（水）に、本校共用会議室にて平成26年度永年勤続表彰式が執り行われました。

これは、本校及び他の教育研究機関等に20年以上在職し、教育研究の発展に寄与した教職員を表彰するものです。

表彰式では、岩熊校長が一人一人に表彰状と記念品を渡した後、長年にわたり職務に精励してきたことへの謝辞が述べられ、式終了後には記念撮影も行われました。

【本年度の被表彰者】

・古　俣　和　直　氏（生産システム工学科・准教授）
・山　田　一　雅　氏（生産システム工学科・准教授）

（総務課：記）

●平成26年度本科卒業予定者の進路状況

（平成26年12月1日現在）

項目／学科	卒業予定者数	卒業後の進路希望			就職状況			進学決定（合格）者	進学決定（合格）先
		就職（A）	進学	左記以外	内定者（B）	未決定者	内定率（B）/（A）×100		
機械工学科	35	24	11	0	23	1	95.8%	11	室蘭工業大学（1名）、東京農工大学（1名）、金沢大学（1名）、岐阜大学（2名）、豊橋技術科学大学（3名）、函館高専専攻科（3名）
電気電子工学科	32	27	5	0	27	0	100.0%	5	筑波大学（1名）、千葉大学（1名）、函館高専専攻科（3名）
情報工学科	49	38	11	0	37	1	97.4%	10	名古屋大学（1名）、豊橋技術科学大学（2名）、神戸大学（1名）、はこだて未来大学（4名）、函館高専専攻科（2名）
物質工学科	46	31	15	0	29	2	93.5%	15	室蘭工業大学（1名）、豊橋技術科学大学（7名）、函館高専専攻科（7名）
環境都市工学科	34	26	7	1	21	5	80.8%	7	北海道大学（1名）、室蘭工業大学（1名）、長岡技術科学大学（3名）、函館高専専攻科（2名）
計	196	146	49	1	137	9	93.8%	48	

●平成26年度専攻科修了予定者の進路状況

（平成26年12月1日現在）

項目／学科	修了予定者数	修了後の進路希望			就職状況			進学決定（合格）者	進学決定（合格）先
		就職（A）	進学	左記以外	内定者（B）	未決定者	内定率（B）/（A）×100		
生産システム工学専攻	20	15	5	0	14	1	93.3%	5	北海道大学大学院（2名）、長岡技術科学大学大学院（1名）、豊橋技術科学大学大学院（1名）、奈良先端科学技術大学院大学（1名）
環境システム工学専攻	10	4	5	1	4	0	100.0%	5	北海道大学大学院（3名）、信州大学大学院（1名）、名古屋大学大学院（1名）
計	30	19	10	1	18	1	94.7%	10	

平成26年度 本科 大学編入学試験合格一覧 (平成26年12月1日現在)

学　科	合格者数	合格先大学	内訳
機械工学科	11名	国立大学法人　室蘭工業大学	1名
		国立大学法人　東京農工大学	1名
		国立大学法人　金沢大学	1名
		国立大学法人　岐阜大学	2名
		国立大学法人　豊橋技術科学大学	3名
		国立高等専門学校機構　函館工業高等専門学校専攻科	3名
電気電子工学科	5名	国立大学法人　筑波大学	1名
		国立大学法人　千葉大学	1名
		国立高等専門学校機構　函館工業高等専門学校専攻科	3名
情報工学科	10名	国立大学法人　名古屋大学	1名
		国立大学法人　豊橋技術科学大学	2名
		国立大学法人　神戸大学	1名
		公立大学法人　はこだて未来大学	4名
		国立高等専門学校機構　函館工業高等専門学校専攻科	2名
物質工学科	15名	国立大学法人　室蘭工業大学	1名
		国立大学法人　豊橋技術科学大学	7名
		国立高等専門学校機構　函館工業高等専門学校専攻科	7名
環境都市工学科	7名	国立大学法人　北海道大学	1名
		国立大学法人　室蘭工業大学	1名
		国立大学法人　長岡技術科学大学	3名
		国立高等専門学校機構　函館工業高等専門学校専攻科	2名

平成26年度 専攻科 大学院入学試験合格一覧 (平成26年12月1日現在)

専　攻	合格者数	合格先大学院	内訳
生産システム工学専攻	5名	国立大学法人　北海道大学　大学院	2名
		国立大学法人　長岡技術科学大学　大学院	1名
		国立大学法人　豊橋技術科学大学　大学院	1名
		国立大学法人　奈良先端科学技術大学院大学	1名
環境システム工学専攻	5名	国立大学法人　北海道大学　大学院	3名
		国立大学法人　信州大学　大学院	1名
		国立大学法人　名古屋大学　大学院	1名

平成26年度 インターンシップ（学外実習）企業先一覧

〈本科〉

	企業名	機械	電気	情報	物質	環都	計
ア 1	アイシン・コムクルーズ㈱			1			1
2	㈱浅井ゲルマニウム研究所				1		1
3	旭化成ケミカルズ㈱				1		1
4	旭化成建材㈱	1					1
5	㈱アズマ				2		2
6	㈱アットウェア			2			2
7	㈱アラタ工業					2	2
8	㈱アリヤス設計コンサルタント					1	1
9	アルプス電気㈱		1				1
イ 10	出光興産㈱			1	2		3
11	岩田地崎建設㈱					1	1
ウ 12	宇部興産㈱				1		1
エ 13	㈱エイト日本技術開発					1	1
14	㈱エスイーシー		3	2			5
15	NHK 函館放送局		1	2			3
16	NTT インフラネット㈱北海道支店					1	1
17	㈱ NTT 東日本－北海道　函館支店		1	3			4
オ 18	㈱ OEC			4			4
19	小川香料㈱				1		1
20	オリエンタル白石㈱					1	1
カ 21	開発局千歳河川事務所					2	2
22	開発局函館道路事務所					1	1
23	開発局函館農業事務所					1	1
24	花王㈱				2		2
25	加藤組土建㈱					1	1
26	㈱カネカ鹿島工場	1					1
27	寒地土木研究所					1	1
キ 28	㈱北未来技研					2	2
29	㈱キッツ伊那工場	1					1
30	㈱キッツ長坂工場		1				1
31	キヤノン㈱		1				1
32	キヤノンマーケティングジャパン㈱	1					1
33	極東石油工業合同会社				1		1
ケ 34	㈱ケイシイシイ	1					1
コ 35	㈱構研エンジニアリング					2	2
36	コスモ石油㈱				2		2
37	コマツ建機販売㈱北海道カンパニー	2					2
38	COM 電子開発㈱		1				1
39	㈱コンピュータネットワーク			1			1
サ 40	斉藤井出建設㈱					2	2
41	サントリーホールディングス㈱	1	1				2
42	三洋化成工業㈱				1		1
シ 43	㈱シード				1		1
44	JX エンジニアリング㈱	1					1
45	JFE スチール㈱東日本製鉄所	1	1				2
46	㈱ジェイペック	1					1
47	昭和電工㈱				1		1
48	シンセメック㈱	1					1
ス 49	水 ing ㈱		1			1	2
50	㈱菅原組					2	2
51	住友化学㈱千葉工場	1					1
セ 52	星光 PMC ㈱	1					1
53	全日空空輸㈱	2					2
タ 54	㈱第一テクノ	1					1
55	㈱ダイキエンジニアリング	1					1
56	ダイキン工業㈱		1		1		2
57	大日精化工業㈱				1		1
58	大和製罐㈱		1				1
59	㈱高木組					1	1
60	タカハタプレシジョンジャパン㈱				1		1
61	㈱滝沢建設					1	1
62	竹田設計㈱	1					1
チ 63	チームラボ㈱		1				1
64	中部電力㈱		1				1
テ 65	ＤＩＣ㈱				1		1
66	㈱Ｔ＆Ｋ　ＴＯＫＡ				2		2
67	㈱ DNP 情報システム			1			1
68	テコム㈱			1			1
69	デジタルテクノロジー㈱			1			1
70	㈱電制		3				3
ト 71	東京エレクトロンＦＥ㈱		1				1
72	東京ガス㈱		1				1
73	㈱東芝		1				1
74	道南コンクリート技術センター					1	1
75	東燃ゼネラル石油㈱				1		1

	企業名	機械	電気	情報	物質	環都	計
ト 76	㈱東鵬開発					1	1
77	東洋製罐㈱				1		1
78	東レ㈱	1					1
79	㈱ドーコン					2	2
80	戸沼岩崎建設㈱					1	1
81	豊橋技術科学大学			1			1
ナ 82	長岡技術科学大学		1				1
ニ 83	㈱ニチレイフーズ				1		1
84	日信電子サービス㈱		1				1
85	ニッテツ北海道制御システム㈱		1				1
86	日東電工㈱				1		1
87	日本オーチス・エレベータ㈱			1			1
88	日本原子力研究開発機構			1			1
89	日本原燃㈱		1				1
90	㈱日本触媒				3		3
91	日本精工㈱	1					1
92	日本ゼオン㈱				1		1
93	日本ビソー㈱	1					1
94	日本ユピカ㈱	1					1
ノ 95	㈱ノース技研					1	1
ハ 96	㈱バイナス	1					1
97	函館市水道局				1		1
98	函館市役所					4	4
99	函館どつく㈱	2					2
100	パナソニック㈱ オートモーティブ＆インダストリアルシステムズ社		1				1
101	万里設備㈱					2	2
ヒ 102	東日本高速道路㈱					2	2
103	㈱飛翔ソフトウェア			1			1
104	日立 INS ソフトウエア㈱		1				1
105	日立アロカメディカル㈱		1				1
フ 106	富士石油㈱袖ケ浦精油所	1	1		1		3
107	富士ゼロックス㈱			1			1
108	富士電機㈱		1				1
109	富士古川Ｅ ＆ Ｃ㈱	1	1				2
ヘ 110	㈲ベスト青梅	1					1
ホ 111	㈱北杜設計					1	1
112	ホクレン肥料㈱				2		2
113	㈱細川洋行群馬藤岡工場	1					1
114	北海道エア・ウォーター・エンジニアリング㈱	1					1
115	北海道開発局		1				1
116	北海道大学水産学部				4		4
117	北海道庁					1	1
118	北海道電力㈱函館支店		2				2
119	北海道乳業㈱				1		1
マ 120	㈱牧野技術サービス	1					1
121	㈱牧野フライス製作所	1					1
122	丸善石油化学㈱				1		1
123	マルハニチロ㈱	1					1
ミ 124	みぞぐち事業㈱					1	1
125	三井造船㈱	1					1
126	三菱地所コミュニティ㈱			1			1
127	三菱重工（三菱日立パワーシステムズ㈱）	2					2
128	宮本土木㈱					1	1
ム 129	ムラテック CCS ㈱	1					1
メ 130	㈱メディアグローバルリンクス			6			6
ヤ 131	山梨大学		1				1
ユ 132	豊松吉工業㈱					1	1
レ 133	㈱ RayArc			2			2
ロ 134	㈱ロジックデザイン		1				1
合計		38	37	33	40	43	191

〈専攻科〉

	企業名	生産システム	環境システム	計
ア 1	㈱浅井ゲルマニウム研究所		2	2
2	㈱アットウェア　函館ラボラトリ	1		1
エ 3	㈱エクスプローラ	1		1
4	㈱エスイーシー	4		4
5	㈱エフビーエス	5		5
カ 6	㈱環境科学研究所		1	1
サ 7	㈱三祐コンサルタンツ		1	1
ソ 8	ソフトバンク㈱	1		1
テ 9	DIC ㈱		1	1
ト 10	道南食品㈱	1		1
ホ 11	北海道大学大学院工学研究院	1		1
ム 12	㈱村瀬鉄工所	3		3
合計		17	5	22

体育祭

綱　引　き

障害物競争

大 縄 跳 び

しっぽ取り

ムカデリレー

クラス対抗リレー

編集後記

学校祭など行事が多かった紅葉の季節があっというまに 過ぎ、朝、布団から出るのがつらい冬がやってきました。高専坂のツルツル路面、吹きつける雪など、通学生にはつらい季節ですね。風邪やインフルエンザも流行ってくる季節です。

なにかと憂鬱になりがちな冬ですが、今年の冬、函館には楽しみなニュースがありました。そう、厳寒のなか新幹線の試験走行が始まったのです。いよいよ新幹線で東京まで行ける日が近づいてきましたね。将来の新幹線旅行を計画して冬休みにバイトに励む学生もいるかもしれません。新幹線の来函を楽しみに、今冬は大沼まで走る SL はこだてファンタジー号の雄姿を応援して過ごしたいと思います。

（一般科目人文系　高橋 眞規子：記）

表紙題字：岩熊校長

学校だより　No.192

発行　函館工業高等専門学校広報委員会
〒042-8501　函館市戸倉町14番１号
ＴＥＬ　０１３８－５９－６３３４
ＦＡＸ　０１３８－５９－６３３０